



石川県立羽咋高等学校 関東同窓会会報

第 16 号

2021年7月

特集：会員ネットワーク



羽咋中学校

昭和3年第1回卒業



羽咋高等女学校

昭和5年第1回卒業



羽咋高等学校

昭和24年第1回卒業



昭和7年 羽咋中学校校舎 羽咋高等女学校校舎



昭和45年 羽咋高等学校 新校舎



羽咋高等学校 現校舎



「期待をもって次代の役員に」

関東同窓会 副会長 赤池 清
(宝達志水・上田 20 回生)

未曾有のコロナ禍の中、各行事が中止になっていますが、関東同窓会では、会報「絆」を発行し、内容を従来と変更し、会員ネットワークコーナーを充実させました。各界で活躍されている同窓生 29 名の方々から、母校や故郷への熱き想いを語っていただきました。またオリンピックイヤーなので、先輩の広橋百合子(女 4 回)さんと室矢芳隆(高 1)さんの記事も掲載しました。

来年 100 周年を迎えるにあたり、伝統の重みを感じる中、今年度、入学者が募集定員に満たなかったことには、皆衝撃を受けました。制度の問題提起は勿論必要ですが、同窓会として、在校生や入学希望者、地域の方々に本校の魅力を発信できていたのでしょうか？

一昨年の関東同窓会 60 周年には、七尾、泉丘、羽咋工業、津幡、飯田高校の同窓会からご臨席頂きました。県内人気校では、毎年 20 数名の学生が参加していますが、これは、本部と協力して広報活動をしているとのこと。我が校は、ここ数年 0 人でしたが、岩城教頭、山本先生、番匠副会長のご尽力で 4 名出席しました。絆発行、OB の講演会、学生の懇親会費 1,000 円、就職相談、懇親会へ地元物産の提供などを企画して、100 人以上が参加するようになりましたが、学生は激減です。役員会で帰省の折には、OB の部活訪問や各界で頑張っている方の講座の提供を討議しています。

100 周年記念事業で、生徒の奨学援助のための基金の拡充には賛成です。未来塾の推進、同窓会入会式も、継続して取り組んでいただきたい。加えて、折口信夫先生記念で、社会活動などの功績があった生徒の顕彰や校歌繋がり、金沢二水、大聖寺高校との交流を通し、他校のいい所は取り入れて、特徴があり、誇りのもてる同窓会を目指して欲しい。

秋には総会を開催し、期待をもって次代の役員に引継ぎたいと思っています。



「明年、羽咋高等学校創立 100 周年」

本部同窓会 副会長 番匠 久雄
(羽咋・川原 27 回生)

1972 年、私が入学した年が創立 50 周年の年であり、卒業した 74 年に、今高校のシンボルになっている「杜の鐘」モニュメントが、竣工されました。当時、吹奏楽部に所属していたので、両方の式典には参加していたと思います。そして今、同窓会役員として、創立 100 周年事業に関係させていただく事になり、不思議な感じがしています。

昨年末、学校・PTA 同窓会からなる「100 周年記念事業実行委員会」が、轟会長を実行委員長としてスタートしました。今回は、100 周年という大きな節目なので、各支部の方にも委員会に加わっていただき、多くの同窓生とお祝いしたいと思っています。

100 周年記念事業につきましては、6 月初旬にお手元に届いている「羽咋高校同窓会だより vol.38」で詳しく説明させていただいていますが、令和 3 年度の全校生徒数 492 人という現実の中、母校への教育環境整備や、学生達へ実質的な支援をする内容になっています。これらは、4 年前から導入できた「同窓会運営協力金制度」のおかげであり、今後とも、この制度へのご理解を頂ければと思います。

また、創立 100 周年記念式典、記念祝賀会に関しましては、2022 年 10 月 8 日(土)に、コスモアイル羽咋とロイヤルホテル能登を予定していますが、コロナ禍の中、今後も委員会で検討して行かなければいけないと思っています。

最後になりましたが、長年に渡り、関東同窓会を引っ張ってこられた先輩諸兄に、感謝申し上げると共に、会員の皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。

第8回 現役部活紹介 卓球部 顧問 松田良平



「主体的な部活動」を目指して

新採として羽咋高校に赴任し、6年が経ちました。私は中学、高校、大学と卓球を続けてきて、顧問として卓球を教えることが夢で、教員になったと言っても過言ではないくらいに卓球が好きです。

羽咋高校では2年目から、卓球部顧問と

して指導に携わっています。羽咋高校での教員生活は、部活動も授業も毎日充実しています。

現在、卓球部は男子4名、女子5名で活動しています。団体戦に出場できるギリギリの人数ですが、全員が団体戦に出られることが、モチベーションの向上や、責任のある行動につながっているといった良い面もあります。私自身も、少人数だからこそ一人ひとりと向き合いながら、指導することができています。生徒たちは、練習に一生懸命取り組み、素直にアドバイスを聞き入れてくれるので、とてもやりがいがあります。

私は、「主体的な部活動」を目指して、日々指導をしています。練習内容は、生徒が挙げた自身の課題をもとに、生徒の意見を尊重して、決めることを心がけています。練習後には、毎回ミーティングを行い、その日の良かったところ、悪かったところを共有し、次の練習に活かしています。このように、「主体的な部活動」にすることで、自分たちで考えて、練習するようになりましたし、何より楽しく練習に取り組むようになりました。

去年は、新型コロナウイルスの影響で、夏の県高校総体が中止となり、これまで練習に励んできた3年生にとっては、本当に残念な形での引退となりました。私自身も心苦しかったです。その悔しい思いをした先輩の分まで頑張ろうと、1、2年生で臨んだ県新人大会では、女子が2年ぶりに団体戦で県ベスト4となり、石川県開催の北信越選抜大会に、出場することができました。北信越大会では、県外強豪校とのレベルの差を痛感しましたが、大舞台で試合をすることで、技術面・精神面ともに、ひと回りもふた回りも成長することができました。

部活動を通して、競技力だけでなく、生徒たちが心身ともに成長し、社会で活躍できる人間になることを願って、これからも指導していきます。卓球は生涯スポーツなので、出来れば卒業後も卓球を続けてくれると、顧問として嬉しく思います。

最後になりましたが、関東同窓会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



2年前の会報「絆」14号に掲載した柔道部。4年前は部員0となり1年間休部し廃部の危機に陥りしたが、去年は夏の県大会で団体ベスト4。3年生が個人優勝（コロナでインターハイなし）。冬の県大会でも2年生が個人優勝しました。県大会優勝は22年ぶりです。

今年3月20日に、個人戦で清水貫汰君が、日本武道館の全国大会に出場しました。

4月25日の「第29回石川県高等学校春季柔道大会」男子団体では、2部で優勝しました。



清水貫汰君

藤岡 聖太	上田 一護	多田 千枝	北村 幸陽	荒木 太志	吉田 昌哲	宮本 祥	三野 翔平	岩城 勇汰	今井 翔梧	清水 貫汰	主将	在校生
二年生	一年生	一年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生	二年生

柔道部
ニュース

東京 2020 オリンピックは、新型コロナの影響で 1 年延期となり、2021 年 7 月 23 日開催予定です。今回は、本校の卒業生でオリンピックに出場された広橋百合子氏(女4回生)と室矢芳隆氏(高1回生)をご紹介します。



【生誕からロス五輪まで(1916～1932)】

1916 年(大正 5 年) 5 月 12 日羽咋郡北荘村小川(現・宝達志水町小川)に生まれる。

1929 年(昭和 4 年) 石川県立羽咋高等女学校(現・羽咋高等学校)に入学。

1932 年(昭和 7 年) ロサンゼルスオリンピック予選会で 1m48 の日本新記録で、日本代表に選出。陸上競技日本代表として16歳の若さでオリンピック日本代表となる。

1932 年(昭和 7 年) 6 月 11 日大勢に見送られて羽咋駅を出発。(羽咋高女4年生) 7 月 22 日イングルウッドで練習中、1m51 の日本新記録。

《回顧録より》

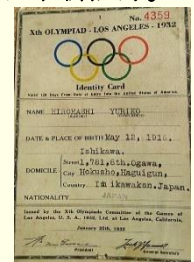
広橋百合子氏(女4) オリンピック選手団に対する待遇は、それは最高でした。身の回りの物一切、衣類なんか何着ももらいました。家から持って行ったのは、浴衣くらい。お小遣いも、県や学校、家からの合わせて何百円といただきました。



アメリカまで二週間もあり、太洋丸の上でも、毎日練習をしました。円盤ややり投げの人は、ひもを付けて投げるんです。私は、向こうの試合の当日まで、日本代表選手になったという気持ちがありませんでしたが、「ここでケガをしたら、すぐに日本に帰されるのだぞ。」と言われて、それは毎日真剣なものでした。ハワイに途中停泊して、

太洋丸の船上にて 二週間目にやっとロサンゼルスに着きました。

走り高跳びの決勝には 10 人が参加して、1m22 から始まりました。いよいよ 1m50 です。私はこの高さを跳べば、6 位入賞間違いなしと思い、「足が折れても、やるぞ」という気持ちでした。私は1回目で跳ぶことをモットーにしていました。それは、スタミナに問題があったからです。それが 1 回、2 回と失敗。3 回目、最後の挑戦で成功したんです。跳んだ瞬間のことですが、「おかあちゃん」と叫んだ気もしますが、お寺の生まれですから、お念仏を唱えたかもしれません。いつもの癖で、スタスタとバーをくぐり抜けると「どーっ」と歓声でした。私の身長は 1m48cm でした。1m52 は失敗でした。私は 8 位と入賞できませんでしたが、やるべきことはやって、悔いというのはなかったです。



オリンピック選手
パスポート



1m50 を跳んだ瞬間

【ベルリン・東京五輪への挑戦と挫折(1933～1941)】

1933 年(昭和 8 年) 羽咋高女を卒業後、日本女子体育専門学校(現・日本女子体育大学)に入学。

日本選手権優勝。

1934 年(昭和 9 年) 日本選手権優勝。

1935 年(昭和 10 年) 1936 年ベルリンオリンピック陸上競技日本女子代表候補に選出。

1936 年(昭和 11 年) 日本女子体育専門学校を卒業。代表選考会で2位となり、オリンピック出場権を逃す。

1937 年(昭和 12 年) 1940 年東京オリンピックを目指す。日本選手権優勝。

1938 年(昭和 38 年) 7 月 15 日 東京オリンピックの返上が発表され、目標を失う。

【教員生活と晩年(1941～1977)】

1941 年(昭和 16 年) 木浦別院幼稚園(朝鮮)教師

1943 年(昭和 18 年) 七尾高等女学校(現・七尾高等学校)教師

1946 年(昭和 21 年) 羽咋高等女学校教師

1948 年(昭和 23 年) 羽咋高女と羽咋中学が統合して羽咋高校(男女共学)となる。高校陸上競技部の指導を担当し、後にオリンピック選手となる室矢芳隆や陸連理事となる山本敦を育てた。その後、金沢泉丘、松任、金沢商業高校で体育教師。石川県立養護学校保健指導主事。退職後は、トレーニングセンターの顧問。脳血栓のため60歳で逝去された。



オリンピック女子選手



入場行進の
スカーフ
ジャケット
スカート



室矢芳隆氏(高1)

【関東同窓会講演会（平成 24 年 9 月 1 日 学士会館にて）】

昭和 5 年志賀町に 7 人兄弟の 2 番目で生まれ、昭和 20 年海軍甲種飛行予科練習生として入隊。1ヶ月後終戦を迎え、羽咋高校1回生に復学。陸上部に入る。羽咋中学で**広橋百合子先生**に「オリンピックを目指せ」と励まされ、本格的に陸上を始めた。廣橋先生が、ロスアンゼルスオリンピック大会で着たトレーニングパンツを頂いた。今でも家宝として持っている。

京都西京極で行われる全日本中学校陸上の出場を、校長に頼んだ。「いい成績が出せるか」と言われ「だせる」といい。出場を認めてもらった。大会では「羽咋中学」を「はさく中学」と呼ばれ、「はくい」と呼ばせるように、反骨精神で臨んだ。（これは能登で生まれた人の特性）結果 800mで 2 位となった。翌年の第 1 回全日本高校選手権 800mで優勝し、中央大学に進学した。

【オリンピックの思い出】

- オリンピック村は、男子と女子は分かれている。女子が男子村に入るときには、証明書がいないが、男子が女子の村に入るときには証明書がある。村には、村長がいて、郵便局などがあった。
- ヘルシンキ大会では、2,000 人が一度に入れる食堂があった。バイキングで食べ放題だった。当時は、日本国内の食糧事情が悪く貧しかったのでたくさん食べた。重量挙げの選手がいた。その選手は、出場種目の体重が決まっていたが、よく食べていた。本人は、3 日もあれば体重を落とせると言っていた。大会3日前から、サウナに入り、水なし、食事なしで体重を落とそうとしたが、既定の体重にならない。当日 300gオーバーで苦労していた。
- メルボルン大会での食堂は、各地域のコーナーがあった。日本選手団はアジア料理のコーナーに入れられたが、日本料理はなく中華料理が主だった。中華料理が珍しくてよく食べた。しかし、4 日目には梅干しが欲しくなった。
- 入場行進は、今は自由に手を振りながら行進しているが、当時は軍隊式の行進だった。オリンピック村で毎朝練習をした。オリンピック会場までバスで 30 分程、一番のギリシャが入場して日本が入場するまで 1 時間程待っていた。入場的时候は、年配者は右側で行進する。右側だと写真に写りやすいからだ。開会式が始まり、オリンピック村に戻ると 4～5 時間はかかった。ヘルシンキ大会では、私は翌日試合だから開会式に出ることができなかった。
- オリンピック前、日本からストックホルムまで 48 時間かけて行き、1 週間調整して大会に臨んだ。大会が終わると1ヶ月ヨーロッパで親善試合をしながら、観光旅行を行った。ブレザー1着で 2 ヶ月くらい過ごしていた。ストックホルムでは、当時白夜の季節で夜になっても暗くならないため、時間が来るとカーテンを降ろして就寝した。

【プロフィール】



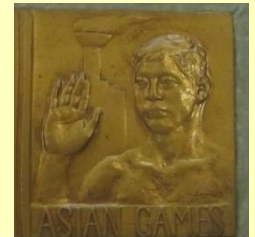
- 昭和 26 年 第 27 回箱根駅伝大会出場
中央大学総合優勝(4 区 区間賞:区間新記録)
- 昭和 27 年 第 15 回ヘルシンキオリンピック大会 男子 800m
- 昭和 28 年 第 29 回箱根駅伝大会出場 (準決勝へ進出)
中央大学総合優勝(7 区 区間賞:区間新記録)
- 昭和 29 年 第 2 回アジア大会(マニラ)
男子 800m優勝、男子 1500m準優勝、男子 1600mリレー 優勝
- 昭和 31 年 第 1 回メルボルンオリンピック 男子 800m出場(準決勝へ進出)
- 昭和 33 年 第 3 回アジア競技大会(この大会を最後に引退)
男子 800m優勝、男子 1600mリレー優勝(アンカーで出場)

平成 20 年 10 月 24 日 羽咋高校第60回記念校内マラソン大会でスターターを行う。
記念講演を行う。室矢杯を寄付する。



志賀町町民体育館
羽咋高校校長室に
メダルを寄贈

第2回アジア大会
金メダル
男子 1600m リレー
男子 800m優勝



第 3 回アジア大会
男子 1600m リレー



第 15 回ヘルシンキ
オリンピック 参加賞





「渋沢栄一」（あかね書房） 芝田勝茂（高 19） 羽咋・下曾祐 児童文学作家



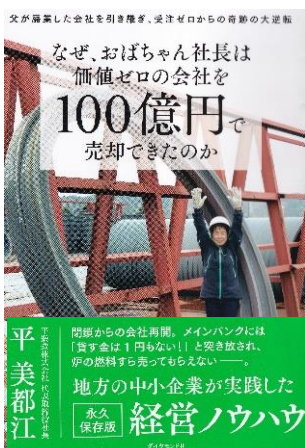
- 1981 年 長編ファンタジー「ドーム郡のものがたり」でデビュー
- 1984 年 第 13 回児童文芸新人賞「虹へのさすらいの旅」
- 1991 年 第 38 回産経児童出版文化賞「ふるさと、夏」
- 2006 年 第 30 回日本児童文芸家協会賞「真実の種、うその種」
- 2006 年 羽咋市立瑞穂小学校校歌 作詞作曲

農家に生まれた栄一は、武士となり、そして「日本の資本主義の父」と呼ばれるまでに。

どんな日々が彼を作り上げたのでしょうか。その若き日々を紐解き、感動の生涯を描く！

今、日本の多くは「会社」に就職して仕事をします。さまざまな産業の会社で働いて、お金をかせぎます。でも、江戸時代まで日本人は「米」によって生活をしていました。年貢（税）は米で払い、「藩」の大きさは、十万石、百万石というふうに米の生産量によってはかられました。日本はアジアの小さな農業国だったのです。

そんな日本が大きく変わったのは、明治時代です。このとき、日本を大きく変えた人たちがいました。そのうちの一人が、渋沢栄一です。



父が廃業した会社を引き継ぎ、受注ゼロからの奇跡の大逆転 「なぜ、おばちゃん社長は、 価値0の会社を100億円で売却できたのか」 (ダイヤモンド社)

平 美都枝（高 27） 羽咋・堀替新

- 1956 年 東京都大田区生まれ
- 1977 年 日本女子大学理学科中退（父親の看病の為）
父親設立の平鍛造株式会社に入社
- 1986 年 専務取締役役に就任
- 2009 年 廃業する事態の中で、代表取締役社長に就任
- 2018 年 大手上場会社へ株式を 90%譲渡するが、その後も代表として、
経営改善に取り組んでいる。

（本文より）

この本は、私がどうやってこの会社を 100 億円で売却できたのか、その秘密を 5 章に分けて述べています。

最初は、テクニックのヒントを、読めば読むほど、どうして私がそう考えるようになったのか、その内側の理由がわかっただけのように、書きました。

第 1 章は「財務」。儲けられる会社とはどういうことなのか。

第 2 章は「理念・目標・方法」。会社の原動力は何か、会社は何のために存在し、何をすべきか。

第 3 章は「現場改善」。すべての価値、そして利益は現場から生まれます。

第 4 章以降は、経営者としての自分自身のモチベーションをどのように高め、高パフォーマンスを維持していくかについてです。

最後の章は「心構え」。いくつか常々考えていることを述べていきます。

この本を読んでいただいた方が、ご自分の仕事や会社が好きだという感情を改めて認識し、また本書が、これから生きていくうえでのヒントになってくれたなら、これにまさる喜びはありません。

会員ネットワーク

近況報告をして頂き、次の人にリレーすることで、会いたい人 知りたい友の消息 など 会員の交流促進に役立てたいと思います。



能登の明日に想う

美濃 順亮 (12 回生) 鹿西・能登部

フランスの経済学者トマ・ピケティが、著書『二十一世紀の資本』で問題提起したのは「経済(貧富)格差の拡大」である。この富の偏在において構造的な表出が地域格差である。地域振興は喫緊の課題であるが、殆どの施策もその効果は一過性でしかなかった。この課題は構造的なので、単なる都市活動への傾斜・追従は尽きる例が少ない。企業の寿命は約 30 年と謂われ、しかも激変の経済情勢で短命化している。勿論 30 年を超えて栄える企業も少なくないが、再生に向けた絶えざる驚天動地の構造改革が行われた結果であり、人的資源の涵養と決断力が必須となる。

為すべきは持続的な教育振興であり、地域に根差した固有の文化、そして地場産業の育成である。教育は、産業と比べて短期的な投資は多くを必要としない。また、短期的な効果は期待できないが、長期的には、何処もが追従できない人的資産が醸成され、投資対効果も大きい。成長の基盤となる文化と教育は、人を育てる肥沃な土壌となる。まさしく文化は耕作(Culture の語源)であり、そして教育は種播であり、地域振興の要となる。能登の灯り舞う固有な文化を深耕し、教育に傾注する風土から、無二の地場産業が育成される明日に期待したい。

澁澤栄一の嫡孫澁澤敬三の提唱で、自然・人文・社会科学にまたがる日本民族学会、社会学会などの九学会連合が組織され、僻遠の離島や半島の八地区について、「国土」との関係性において、フィールドワークが行われた。1952 年に行われた能登の調査は、実に 39 テーマを 51 名の学者が当った、国家的大プロジェクトであった。能登は、地理的に大陸文化を受容する位置にあり、また、北前船で知られる日本海海運の拠点で、東日本と西日本との文化が交錯する場でもあったことなどから、豊饒な文化が育まれ保存されてきた。こうした文化的背景を踏まえると、能登は僻遠の地ではなく、多彩な文化の揺籃の地として、独自の発展を担う理想郷であると確信できる。



【 生 家 】

しかしながら、私も高齢となり、家の管理など無理になってきたので、どなたかに譲ることを考え、中能登町役場の「空き家バンク」に登録しました。

それと並行して、社会福祉施設などに寄付することもトライしましたが、うまくいきません。

本家も空き家でしたが、「御祖の里」という古民家を利用した町の施設となり、会合などによく利用されているようです。処分に困る私と異なり、従兄は本当に幸運だったと思います。

中能登町金丸の古民家

稲邑 豊昭 (15 回生) 鹿西・金丸

私の父は、旧御祖村(現中能登町)の出身ですが、織物業の関係で、金丸に新宅を開きました。戦後「ガチャ万」と言われた時代、織物業が儲かり、父は、屋敷に小さな日本庭園を設営しました。高校を卒業以来、私は、金丸には住んだことはありませんが、20 数年前に父が亡くなって以来、年に 1, 2 度帰省し、庭木の手入れなどしたりしてきました。



【 御 祖 の 里 】



ラグビー部の思い出 松田 建次 (15 回生) 志賀・清水今江

昭和 35 年 4 月入学し、間もなくラグビー部に入部しました。練習はかなり厳しい毎日でした。夏休み中の合宿練習は、教室が宿舎でした。食事の用意は、校舎の中庭などで、各運動部が大きなお釜でご飯を炊き、食事の用意をしました。当時の羽咋高校は、各運動部の活動が盛んで、県民体育大会の団体高校の部で、昭和 36 年度、37 年度には、男女総合優勝しました。また、県代表になった運動部は、講堂で全生徒の前に並び、校長の言葉と全生徒の校歌と応援歌で、壮行式をしていただいた時もありました。

当時の体育担当教師の板尾秀二、赤池信次、藤本潔の各先生、また各運動部の顧問先生が、熱心に指導されました。前関東同窓会会長の山上徹さんは、ラグビー部の 1 年先輩です。立派なラグーマンで、いろいろ指導をいただきました。

汽車通学していましたので、家に帰るのは夜 9 時過ぎになり、疲労と眠気で、勉強の方はあまり進みませんでした。中間、期末テストの 1 週間前から全運動部の練習は禁止でした。羽咋高校を出て、間もなく 60 年。高校時代の苦しい練習もありましたが、今となれば懐かしい思い出です。

私事ですが、息子が勤務している会社(某総合電機メーカー)のラグビー部の後援会の会員に入っており、全国社会人ラグビー大会の頃から現在のトップリーグ大会まで、ここ 25 年くらい、東京・神奈川の試合には、ほとんど応援に行っています。だんだんと齢をとって参りましたが、なんとか働けるうちは、頑張りつづけたいと思い、毎日の生活をしております。



作り手からの遠吠 本多 群司 (16 回生) 羽咋・中央

2020 年 6 月～に京橋の画廊(ギャラリー)で開催予定の『可逆「遺・居」展』が、コロナにより中止になりました。(後日要望するとの事で...)準備中であった作品・主張を記させていただきます。

現代美術の情景を端的に論じると、写真や映像(AI, コンピューター)を主軸とした国際基準的な作品が乱立し、宗教・経済・政治などの問題を直訳したものとして「日常性の取り込み」「生態系や地球環境の調和」「観客と地域の協働」といった関係の表現があるが、それらは 20 世紀前半のデュシャン、ヨゼフ、ボイスなどの表現だ。そして、オールオーバー(ポロック)、ポップアート、ミニマルアート(極少、均質)がある。日本での「もの派」といわれているものも、ミニマルの部類と思われる。

近年、漫画、アニメ(イラスト)風なものを、ポップアートと混ぜ合わせ、「コラボ」という言葉で流行(ファッション、デザイン化)させ、世界に唯一、最初に多方面に影響を与えた「浮世絵」の平面性をピックアップして、「スーパーフラット」という意味付け(?)の様だが、マチスの「アンフラマンズ(極薄)」と同意語です。そしてこれらの表現などは、ミニマル表現の範疇にある。

明治から一世紀半、「近代化」をテクノ(技術)として歓迎し、「模倣」を疑う事なく、社会に受け入れてきた歴史がある。そして現代社会は、AI(コンピュータ)により、知識・数値(統計)、出来事などは一瞬にして世界と連なり、情報網羅し解答を出す。個人的には自由で、「何でも有り」の便利な道具と思われるが、チャップリンの「モダンタイムス」の様に、それよりも便利な時空からの「人間ロボットシステム」です。その監視空間からの表現は、数値(統計)による「ショウビジネス」商品(デザイン化)です。それらの均質(ミニマル)空間表現から脱する事を可能ならしめようとするならば、「思考の感覚(美)」で、観る・読む事であろう。



「都々逸」をひとつ、 愛は真心、恋下心、結婚するは出来心



郷里は遠くなりにつけり

杉森 一則（16 回生）宝達志水・南吉田

私の生地は旧柏崎村（その後、押水町、現宝達志水町）字南吉田です。地元の大学を卒業する昭和 43 年 3 月まで、約 22 年間過ごしました。早いもので、東京に出てから既に 53 年に及び、とうとう昨年 10 月に後期高齢者の仲間入りをしました。私は同窓会活動に全くもって不熱心な会員で、反省の意味を込めて、折角のお話なので一筆駄文を投稿させて頂きました。

仕事の詳細は省くとして、浜松・前橋・静岡と思ってもよらぬ 12 年間の単身赴任生活を送りましたが、長男が現在金沢に単身赴任中で、「親の因果が子に報う」とはよく言ったものだ、と今更ながら感心しています。

さて、私は両親を亡くし、お墓の守りも姉夫婦に託し、郷里に帰る機会は滅多にありません。それでも昔日の両親や先年亡くした弟や郷里に嫁いでいる姉との日々暮らしを思い出し、望郷の念に浸ることがあります。

最後に、私の自慢は健康です。大学を卒業するまで両親の農作業を手伝っていた経験が骨太に育ち、春に山菜、アサリ取り、秋に茸、自然薯掘りの習性は今も生きており、季節が来ると秩父の山で戯れています。



子どもたちとともに育つおとな

平田 康郎（高 17）志賀・大念寺

羽咋高校を卒業して、もう 55 年あまり経ってしまった。先日、赤池 典充さんから絆の原稿依頼を受けた。彼は小学校、中学校、特別支援学校で、合計 39 年余り教師をしていたことを思い出し、彼が教師として大切にしていることを聞いた。それが以下の 8 つである。

- ・子どもにとっての最大の教育環境は教師自身である。
- ・育児は育自（子どもの言動から教えられることがたくさんあり、親として育っていく）

- ・教育は共育（子どもと共に教師は育っていく）
- ・子ども一人ひとりの可能性を「信じぬく」
- ・すべての子どもたちを「ありのまま受け容れる」
- ・何があっても笑顔で「励まし続ける」
- ・たとえ一時は反発されようとも「どこまでも支える」
- ・子供たちと「心をつなぐ」

教師や親は、子どもを育てるだけでなく、子どもたちによって育てられるという事になるだろう。私の思いと重なるコメントだ。

私はこの 15 年余り、新宿で外国ルーツの子どもたちの学習支援をやってきた。学習支援とは言え、半分の時間は私が子どもに教えているが、後の半分は子どもたちが私に絵の描き方、折り紙の作り方などを教えてくれる。私が得意な作業ではないからだ。「先生、日本人なのに折り紙できないの？」などとも言われる。

最初のうちは絵を描くことや折り紙の話は雑談であったが、ある日、子どもが私に絵の描き方を話すことは、「教える」と言う言葉に言い換えることができる事を発見した。それ以来、勉強が大嫌いだったはずの子どもが、私を見つけると「先生、勉強しよう」という。知らない人は私が、勉強が大嫌いだった子を勉強好きにさせたのだと思ひ込む。勉強嫌いだったはずの生徒の勉強の意欲を引き出したのだと驚いてしまう。しかし、教えてもらっている生徒は 74 歳の私なのだ。しかも、私が子どもたちから学ぶのは、絵や折り紙だけではない。私などよりはるかに厳しい社会状況で、必死で生きている子どもたちの姿だ。





保育士として 45 年余り、今感じる事

齊藤(旧姓:浜田)みちよ(19 回生) 羽咋・鹿島路

昭和 42 年 4 月に東京に上京し、現在、埼玉県加須市に住んでいます。45 年余り保育士として仕事をしてきた今、子育てについて考えさせられることが多々あります。

子どもの遊びも、以前とは随分変わってきました。ゲームの普及、不審者等の為、外遊びが少なくなりました。又、親が子どもと一緒に遊ぶことなく、親がゲームに夢中になってしまったり、子どもを置き去りにしたまま外出したり、子どもが小さい時から(赤ちゃんやキッズ用アプリがある)ゲーム漬けになっていたりと、又、小さい赤ちゃんを、夜遅くにファミリーレストランに連れ出したりと、生活リズムは逆転しています。

反面、0 歳から英才教育で、親の願望通りに育てようとしていることも目につきます。確かに、きちんと子どもに向き合い愛情を注ぎ、しっかり子育てをしている親御さんが、ほとんどだと思います。気になるのが、「子どもの生活リズムはどうなっているの?」「子どもの育ちは大丈夫?」「どんな大人になるのだろうか?」と考えさせられます。私は、「自分の意志で考え、行動できる子どもに育って欲しい」と願うからです。

そして、コロナ自粛の今、子どもたちを戸外で思いっきり遊ばせられない、親子が孤立しノイローゼになってしまい、虐待やネグレクトというケースが、非常に増えている事もよく耳にします。親子のコミュニケーションが中々持てない現状は、大変なことで、真剣に考えていかなくてはならない問題だと思っています。命の大切さ、尊さと「生まれてきてくれてありがとう」の感謝の気持ちを大切に、今しかない子育てを、笑顔を忘れずに、楽しんでもらいたいと願っています。これは、長年保育士という仕事を通して、家族、親子関係の在り方について感じているところです。

さて、私事で恐縮ですが、人生 100 年時代、70 歳を過ぎた今、保育士としてこれからも、笑顔と感謝の気持ちを忘れず、続けていきたいと思っています。又、陶芸、地元の玉敷神社【国無形文化財】(加須市騎西)の神楽師として楽や舞をしたり、ミニテニスを行っています。それが私の生き甲斐です。ミニテニスは生涯スポーツなので、良い汗をかき充実感が得られます。しかし、今コロナの影響で、中々実現できないのが現状です。早くコロナが終息して、明るい未来が開けることを祈っています。



「専業」児童文学作家七年目！ 芝田 勝茂(高 19) 羽咋・下曾祢

七年前、長く勤務していた会社をやめて、兼業(2、3年に一冊くらいのペースで長編創作を出していた)から、専業の児童文学作家になりました。

そのころ、学研から依頼があり、それまで自由気ままに想像力のみで書いていたファンタジー作家が、古今東西の名作の子どもむけリライトをはじめたわけです。「ガリバー旅行記」「西遊記」「ロビンソン・クルーソー」「坊っちゃん」「銀河鉄道の夜」などを手がけましたが、今の子どもたちが、これらの作品を読んで「すごい！ おもしろい！」と感じてくれるかどうかは問われる仕事でした。書き手であるわたしが、作品だけでなく、その背景や、作家自身、そして原文のニュアンス……いえば、その物語の「肝」は何か、ということをとらえなければならないのです。おかげさまで、それまで疎遠だった世界は身近になり、「銀河鉄道の夜」など、「これまで何度も挫折したけど、いっきに読めました！」なんていう、うれしいお便りも届きました。地元(世田谷区)の小学校から依頼されて、漱石や、宮沢賢治について語る機会もあり「さて、いちばんのポイントは、じつはジョバンニでもカムパネルラでもないと思う。だれか、わかりますか?」「登場するのは明治時代の人物の、それぞれのパターンです。坊っちゃんはどういうパターンかな。」なんて問いかけたり、とても楽しい時間でした。あかね書房で「葛飾北斎」の伝記を書いたご縁で、大河ドラマや新一万円札で有名な「渋沢栄一」の伝記も、この一月に発売されました。自分の本が多少書店に並ぶようになって、ちょっとだけ、面目をほどこした気持ちです。コロナ禍で、去年の秋に母校(羽咋市の小学校)に何う予定がキャンセルになったのは残念でしたが、きっとまた、必ず行けると信じて、今年もがんばります！



知らないうちに、拡めちゃうから。



コロナ禍のアマビエ

岡 史郎(高 20 回生) 羽咋・千里浜

新型コロナの流行で、人々の日常が激変してしまった。この原稿を書いている今と、『絆』が皆さんのお手元に届くころには、またどのような状況になっているか、知れたものではないのである。

そんなコロナ禍で、妙なものが目に付くようになった。アマビエである。それまで、見たことも聞いたこともなかったので、大いに興味が湧いて調べたら、疫病封じの妖怪であった。アマビエという名前の由来も、諸説あるようで、面白いと思ったのは、誤記からきているという説である。漢字表記では、尼彦入道、海彦、あま彦など一定ではないが、仮名では、アマビコと書かれているようだ。ヒコは、神話に出てくる海彦・山彦にあるように、古代の貴族や豪族の男子に付ける尊称で、女性にはヒメが使われている。ヒメ・ヒコは神社の名前でもなじみがあるから、本当はアマビコで、それをコとエを書き間違えて、アマビエになったというのも、識字率が低い昔のことだから大いにうなずける。

コロナ禍で、厚労省がアマビエを採用して、疫病封じのキャンペーンに使っているの、コピペしておくが、本当に、コロナは早く収まって欲しいものである。

ぼくはスマホがないから、こうして興味が赴くままにパソコンで次々と検索して、ネットサーフィンを楽しんで、一日の大半を過ごしている。スマホを持っている人なら、きっと同じように、次々とネットを辿って知識と情報を吸収していることだろう。

同窓会のことだから、本来なら母校について何か書かなければいけないのだろうが、いろいろありすぎて困る。青春時代はだれにもあるが、なかでも高校の 3 年間といえば、まさに青春の真ただ中のことであるからして、それこそ思い出は山ほどある。だが振り返って語るには、何やら気恥ずかしいし、やたらと後悔も多くて、ほろ苦く切ない。だから、今さら思い出して、いちいち語りたくないのである。そお〜と胸のうちにしまっておくに限る。



古希にて思う事

八十島 章(21 回生)羽咋・島出

私は、今年の 1 月で 70 歳になった。「もう若くは無い」と思いながらも、老体である事実を忘れていた時があるのは、私だけだろうか。時間は、万物全てのものに等しくやってくる。長くもあり短くもあり、何か不思議な感覚さえ覚える事がある。

私の幼小ころには想像すらできなかった事が、今色々起きています。例えば、交通事故など、殆んど聞いた事が無かった。理由は簡単、車が殆ど走っていなかったからだ。交通事故で亡くなった人は、聞いたことがなかったが、軒下から雪が落ちて亡くなる人はいた。よって、親から「軒下は歩くな」と、よく言われた事を記憶している。

また、大きく変わった 1 つに電話がある。電話は家には無かったし、呼び出し対応だった。だが今は「スマホ」「5G」…… 一体何者だろうか？

故郷の私の家は、海が近い。昔はハマグリがよく取れた。小 1 時間程浅瀬を掘ると、バケツ一杯になったものだ。そんな事で、食べたくない物の 1 つだった。今思うと何と、贅沢な生活だったものか。また地引網も、漁師が仕事として、毎日やっていた。大きな魚は少なかったが、魚種は多かった。網が、砂浜に引き寄せられて来る時の魚の「イブキ」たるや、見応えがあったものだ。しかし、今は魚がいない。食事は魚が多かった。特にアジが良く獲れたから、毎日の様に食べた。肉より魚が好きなのは、その為だと思っている。

私は、年に 2 回帰省している。羽咋の浜は随分変わった。昔の砂浜は大変広かった。海水浴は裸足だったから、砂浜の砂が熱く、浜辺まで皆で走ったものだ。しかし、浜は随分変わってしまった。魚介類は殆どいないし、砂浜は随分狭くなった事には驚いた。最近の新聞報道で「浜に砂を入れて砂浜を広げる云々」の記載があった。地球温暖化を身に染みて感じている。

私には孫が一人いて、今小学 5 年生である。彼が 70 歳になるころは、どんな社会や環境になっているだろうか？ 多分、想像すらできない事が、起きている違いない。



羽咋から白山が見える

岡山 輝明(24 回生)能美・寺井

コロナ禍が始まる昨年 2 月まで、8 年余り、親の様子を見に毎月帰省していました。ほどなく父が 86 歳で他界し、母は周りの皆さんに助けられながら、一人で暮らしていました。物忘れもひどくなってきたので、やむなく施設を勧めると、ひどく嫌がりました。「あんなところ行きとね!」。ディサービスやショートスティに行けば、笑顔で楽しんでいるのに、そう言い張ったのです。

親の都合に合わせるしかないと思いました。一人息子である私は、定年後も、勤めていた都立高校を辞め、今度は、2 週間おきに帰省するようにしました。大雪の年、早朝出歩く母を、ご近所の方が見かけて、連れ戻してくれたことがあります。それで、何とか介護老人保健施設に入って貰いました。一時帰宅を繰り返すことで、ショートスティを利用しているように見せかけたのです。

今、実家は、母の古里能美市にあります。父は宝達志水町の出身です。羽咋の方には、墓参りの他、高校の恩師に会うなど、時々は出かけていました。道の駅で、自然栽培の羽咋米を買い求めたりもしました。その折り、羽咋から白山連峰が見えることに気が付きました。早春の晴れた日、柴垣から滝にかけての海岸段丘から、千里浜の向こう宝達山の右手に、白い山脈が見えたのです。

母はこの 2 月、入院先で新型コロナウィルスに感染し、89 歳で亡くなりました。一年間ぶりに帰省し、防護服など身に着け、病室のベッドに横たわる母の遺体に会いました。穏やかな顔でした。葬儀などは行わず、親戚やご近所の方には、三々五々お参りに来て戴きました。遺骨は、墓に撒き父と一緒にしました。実家が遠りますが、いつでも住めるようにしておくつもりです。帰る場所があり、気にかけてくれる人達がいるのは心強いことです。高卒後上京して 50 年目。18 歳までのあの時間、出会った人達、気にもとめなかった風景が、今は限りなく懐かしい。



私の過去・現在

谷内 篤博(24 回生)宝達志水・宝達

私は高 24 回生(出身は旧押水町宝達)で、47 年に羽咋高校を卒業し、現在は、実践女子大学人間社会学部で、理事・学部長を経て、学生総合支援センター長をしております。大学は、本学を含め 2 つ目で、専門は、人的資源管理(HRM)、いわゆる人事労務管理です。

高校時代の私は、進路指導の先生から注意されたり、羽咋工業との唐戸山相撲場での乱闘未遂事件を起こすなど、褒められるような高校生ではありませんでした。その報いとして受験に失敗し、浪人後、早稲田大学法学部に入りました。その後、上場企業 2 社での管理職、2 つの銀行系大手シンクタンクでの経営コンサルタントを経て、40 歳の時に大学教員になりました。経営コンサルタント時代は、主に大企業の人事制度の設計や、人材開発の体系構築のコンサルティング業務に従事しました。そのうちの 1 社(上場企業)からの要請で、4 年間社外監査役を務めました。経営コンサルタントをしている時に、これからはストレスマネジメントの時代が来るとの思いから、筑波大学大学院のカウンセリング専攻に入学し、ストレスコーピングのあり方を学びました。そこで学んだことが、国家検定キャリアコンサルティング技能検定の、長年におよぶ試験委員就任につながっているものと思います。

現在 67 歳ですが、年をとるごとに昔のことや田舎を思い出し、70 歳の定年後の生活拠点をどこに置くのかを、日々悩んでいます。夢に出てくるのは、今住んでいる東京の風景ではなく、田舎の風景が圧倒的に多いです。これは、東京で時々集まる高校時代の仲間も同じようです。年 2 回、高校時代のクラス仲間や気の合う仲間と、親睦を深めるため集まっています。1 回は東京に在住している仲間と飲み会を、もう 1 回はお盆に朱鷺の台カントリークラブでのゴルフ大会で集まり、昔話に花を咲かせています。

最後に、母校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念しております。



起業するため東京に移り住み 33 年たち思うこと

小林 美紀(25 回生)宝達志水・敷浪

3人の子供を育てながら会社経営をするというのは、今から考えると無謀だったと思いますが、若いってすごいエネルギーですね。慎重なので、身の丈で仕事をしてきたので、赤字は一度も経験せず、今年1月末決算で45億の売り上げ。私の会社は、どんな会社かという「ラングスジャパン」と検索していただくのが、一番詳しく知っていただけたと思いますので、是非ご覧ください。

検索が不得手の方のために、少し書かせていただくと、一番よく知られている商品は『キャスターボード』と言い、子供たちが公園などで、くねくね動くボードに乗って遊んでいるのを、ご覧になったことがあるかと思います。あの商品の輸入総代理店です。お孫さんやお子さんに、購入された方も多いのではないのでしょうか？コロナ禍で休校になり、このボードで遊ぶ子供たちを、よく見かけるようになりました。デザインは自分がローカライズしているので、遊んでいる子供たちの姿を見ると結構嬉しいです。

家族は、夫と息子、孫の3世代同居で、夫と息子は、開業医と勤務医をそれぞれしており、このコロナ禍で患者さんと向き合い、息子は、防護服で診療にあたっております。石川県時代は、医師である夫の転勤の都度一緒に引っ越し。能登総合病院宿舎、穴水総合病院宿舎などで暮らしました。当時は専業主婦で、のどかな暮らしをしていました。最近、弟や友人の Facebook で、夕日が沈んでいく千里浜海岸の写真などを見ると、あの暮らしをそのままにしても楽しかっただろうと、ふともうもあります。子供たちから、石川県での穏やかな生活の日々を奪い、自分のしたいことのために、東京に出てしまったのですが、今はそれぞれが自分の居場所を作り、「母さんが、東京に思い切って出てきてくれていて良かった」と、ようやく言ってくれるようになり、ホッとしているこのごろです。

最近の趣味は TikTok で、フォロワーも 17,000 人くらいになっています。@rinjyunmiki3 ご興味ある方は是非ご覧ください。たぶん、死ぬまで現役で仕事をしていきます。



海の向こうへ

雄谷 進(26 回生)志賀・福野

高校3年間、毎日バスから海を眺め、「あの青い海の向こうへ行きたいなあ」と想いながら通学しました。国際交流基金日本語国際センター(さいたま市)で専任講師となり、昨年 11 月まで、海外7カ国(スリランカ、スペイン、トルコ、ベトナムなど)で日本語教育に従事しました。一つ、うれしいエピソードをご紹介します。スペイン・マドリードで夕方散歩中に、前を歩いてきた女性が立ち止まり、「なんてハンサムなの！」と、一言。夢のような一瞬でした。そして今回、現役最後の海外赴任となったベトナム・ハノイでは、「新規日本語教師育成」という新規プロジェクトを担当させていただきました。受講生のほとんどが 20 代、30 代です。この若いベトナム女性に囲まれながら、楽しくとても充実した赴任でした。

ミャンマー マンダレーにて

ベトナムの若い人が「日本語教師になりたい」と希望し、コースに参加してくれたのです。しかもコースは 5 ヶ月間、毎週の土日、朝から夕方まで。授業内容は、日本語教授法と実際に日本語を教える実習、それに加え、毎週の教授法小テスト、グループ学習と発表、ポートフォリオ提出など、かなりハードなコースです。このコース修了者が、これから 10 年、20 年後、ベトナム日本語教育の一躍を担ってくれると信じています。

「みなさん、どうですか？」

「海外で日本語教師を目指しませんか？」

さあ、海の向こうへ！



教師育成チームのスタッフ、講師と



2020年と云う年

小山 篤(27回生)宝達志水・散田

2020年は、公私に渡り、二つの大きな出来事が起きた年となりました。

ひとつは言うまでもなく、世界中の全ての人を翻弄した、超ド級の感染症の蔓延です。現在、ワクチン接種が徐々に進んでいるものの、残念ながら、収束にはまだ時間が掛かりそうな気配です。殆どの方は、自分が生きている間に、まさかこんなことが起きるとは思わなかったでしょう。自由に仲間が集うことや、時間の共有が図れなくなるという、今まで当たり前の社会生活の根本が奪われたのですから。一方、リモートワークや、都市部から地方への移住者が増えるなど、色々な面で新しい生活変容も生まれ、ニューノーマルと言った新語も登場しました。感染症の歴史では14世紀のペスト、百年前のスペイン風邪に次ぐ、紛れもなく世界史の年表に残る不本意な年となりました。

ふたつ目は、私的なことですが、40年間のサラリーマン生活を経て、昨年5月から定年生活が始まったことです。元来無趣味な私ですが、定年後は、あれもこれもといった妄想や計画は、感染症拡大の時期と一致し木端微塵となり、否応なく巣ごもり生活を強いられることになりました。「毎日が日曜日」は、当面自分だけの特権と思っていたところ、普段は近所に居ない筈のサラリーマン諸氏も、平日の朝から洗車あり、犬を連れての散歩ありと、一種不思議な感覚もありましたが、幸か不幸か、お陰で私の定年後の「ぽっかり感」や「無重力感」はどこへやら。コロナに感染しては、いけないという緊張感も手伝ってか、「定年うつ」？に見舞われることなく、これはこれで、唯一ケガの功名だったかもしれません。

PC、ラジオ、テレビ3種の神器を、部屋に持ち込んでの巣ごもり生活と、時々散歩のルーチンは、今も継続中ですが、流石にそろそろ以前の生活が恋しいこの頃です。不本意な2020年は一時的なショックであったと、近い将来回顧できる時が来ることを祈りながら、皆さんも引き続きご自愛を。



with コロナ 鉄矢(旧姓:豊田)秋美(27回生)宝達志水・菅原

私がこの原稿を書いているのが、令和3年1月下旬。コロナの第3波の真っ只中。この文章が記載された会報が発行される頃には、もう収まり、あの頃は本当に大変だったよね！と話せる様になっていることを、切に望まずにいられない。現在、細々と続けている私の仕事も、コロナの影響で、テレワークだZoomだのが入り込んで来て、アナログ人間の私には、悲鳴の連続でしかない。

昨年、第1波の時も、晴れて小学一年生となった孫娘も、いつになったら、お気に入りのランドセルを背負って入学式が出来るのか、先の見えない不安だらけのスタートとなり、本当にかわいそうだった。当たり前がどんなにありがたかったか思い知らされた。ずっと以前に、宝達志

水町の来迎寺ご住職から、当たり前だと思っていることが、本当はとても「ありがたい」ことで、「有難し」からきているとお聞きしたことがある。なるほどなあと、今その意味を実感している。ありがたいと言えば、子供の頃から慣れ親しんだ、千里浜海岸の砂浜だ。毎年夏に、子供や孫達総勢10名以上で帰省するのだが、そのお目当てが千里浜での海水浴だ。私たちにとっては、お馴染みの海岸だが、娘婿やお嫁さんにとっては、感激の海でしかないようだ。みんなで、砂の芸術作品を作ったり、スイカ割りをしたりと一日遊べる。私はただ、ぼーっと海を眺めているだけで癒される。夕日が沈む千里浜海岸は、言葉には現せない美しさで、私にとってはずっと残っていてほしい心の風景だ。





校歌が聴こえる

笹川 道博(28 回生) 鳥屋・末坂

羽咋高校を卒業して、はや 45 年もの時が過ぎました。郷里を離れたのは随分昔のことではありますが、つい先日のことのような気もして、ちょっと不思議な気分です。上京してからというもの、自分の人生は、まるでジェットコースターのように激しい昇降を、繰り返してきたような気がしています。25 歳で結婚し、27 歳で起業し、42 歳で事業に失敗、その後は細々と勤め人をしながら、糊口を凌ぎ今に至っています。それでもさまざまな「天国」と「地獄」を味わってきたような気がするのです。

自分が経営していた編集・出版会社が、ミリオンセラー本やベストセラー本を生み出すことが出来たことの大きな喜びと、いつしか経営が傾き出した会社が、数億の負債を抱えてしまい、二つの会社と多くの社員たちを、一度に失うことになった苦しみや悲しみ。他にも、息子の成長と 50 代半ばにして大学の理系学部に戻学できたこと。そしてその一方で、「クモ膜下血腫」という大病を患うことになった自分。・・・幾度となく、「天国」と「地獄」を行き来するような時を過ごしてきたのです。そんな私が今思うのは、我が人生がなんと恥多き人生だったことか、と言うこと。そして、所詮「天国」も「地獄」も似たようなものかもしれない、という諦観にも似た感慨でした。

本当につらく苦しい時、ぼくには、心の支えとなる「秘密」があったのです。それは、母校羽咋高校の校歌のことです。言葉に出来ないほど厳しい状況にあった自分には、いつもあの懐かしい校歌が聴こえるような気がしたのです。高校時代、体育館に集まって皆で歌った校歌のあの声が、かすかに、しかし確かに聞こえるような気がして、時には自分で口ずさむこともありました。口ずさむことで、かつての多くの同級生たちの顔が思い浮かび <みんな元気かな？> <みんな頑張っているかな？> との思いと共に、自分自身も負けずに頑張らなければならない、と勇気づけられたのです。

現在も私は、時々校歌を口ずさみながら、日本で初の e-sports の学校教科書と、マイクロソフト社のゲーム・プログラミングソフトの解説書の執筆編集で、もう一度“羽高魂”を発揮しようと、奮闘努力の毎日を送っています。



27 年振りの「トメアス」訪問時
移住者の方々と

ベレンから 200 km 離れた日系移住地「トメアス」に暮らし、アマゾン地域の移住者の方々と生活を共にし、移住の可能性を探ってみた。が、結果は移住をあきらめ帰国した。

帰国後はそれでも、海外での仕事がしたくて開発コンサルタントとして、発展途上国（アフリカや南アジア、南米、パプアニューギニア、東チモールなど）30 数か国で仕事と生活を繰り返す社会人を送ってきた。そのような人生を送る中で、「羽咋」：「私のふるさと」があると言うことが、やもどの「安心感」を作りだしてくれていることに気づくようになった。そして日本に居れば、長期休暇のときは「ふるさと」の存在を確認したくて帰っていた羽咋。

しかし、このコロナ禍で、新幹線のおかげで物理的には近くなったが、簡単に帰れなくなったふるさと。

また気軽に「ふるさと」と往来が可能になるように、早い「コロナ禍」の終息を願って！！

ふるさと「羽咋」

石原 博英(高 29) 羽咋・志々見

皆さま「ふるさと」と言う言葉に何を感じられますか？
私には「安心感」という感覚があてはまります。

私は、母校「羽咋高校」を卒業して 1 年間の浪人後、関東の大学に進学にし、「羽咋」は住む場所ではなく、遠くから思う「ふるさと」になった。大学卒業後は、海外の仕事に携わってきた。そして、高校時代からの夢であったブラジル移住も挑戦した。3 年間、アマゾン川河口の都市



妻に感謝の定年旅行

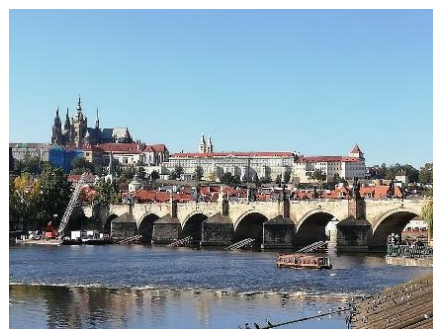
猪野 美明 (30 回生) 羽咋・島出

大学進学のため上京してから 42 年が経ちました。早いものです。大学卒業後は、千葉県の電子部品メーカーに 10 年勤務し、その後、光を応用した半導体や液晶パネル製造装置メーカーに転職し、現在は、横浜に住んでいます。横浜といっても、10 分ほど歩くと、田んぼや畑がある緑多いところ。緑の多いところが好きなのは、自然豊かな羽咋に育った影響かもしれません。

一昨年 9 月末に定年となり、再雇用の契約社員として、同じ仕事を続けております。再雇用にあたり、2 週間の休暇があり、妻と中欧のオーストリア、ハンガリー、スロバキアおよびチェコを、バスで移動するツアー旅行に出かけました。出張で台湾、韓国等には行ったことがありますが、ヨーロッパは初めてのため驚きも多かったです。例えば、日本を出国するときは、半袖でも大丈夫くらい暖かでしたが、現地は、10 月初旬にもかかわらず、朝 0℃まで気温が下がった時があり、服装に苦労しました。ツアーのため、主に宮殿、聖堂等の観光地を巡るものでしたが、自由時間も多かったため、街並み散策や地元のトラム（路面電車）にも乗ることが出来て、楽しい思い出となりました。

今後は、再雇用が終了する 65 歳まで、元気に働ければいいかなーと思っております。

羽咋高校出身の皆様、新型コロナの影響で大変なことも多いかと思いますが、お元気でお過ごしください。



日頃思っていること

石田 弘 (30 回生) 宝達志水・所司原

『之乎路から 直越え来れば 羽咋の海 朝風したり 船楫もがも』

奈良時代、越中の国司大伴家持が、氷見から羽咋の気多大社へ向かう折りに詠んだ、万葉集掲載の歌である。この記念歌碑が、今も峠に鎮座する臼が峰、その隣村が私の郷里だ。

天平時代から、ほとんど時計が止まったような山村、そんな世界から羽咋高校に通い始めた頃、ちょっと都会に出た気分を味わった。大学で上京したときは、既にテレビ文化に馴染んで、高校入学時ほどのショックは感じなかった。結局、そのまま関東のプラント会社に就職し、60 歳を過ぎた。そして、相も変わらず会社と自宅を往復する毎日だ。

10 代の終わりにパソコンが登場し、30 代で 1 人 1 台まで普及したと思うと、50 代でスマホを見るに至った。今や小学生までもが、コンピューターを身に着けて生活している。VHS・ベータ戦争は遠い昔、TikTok、YouTube を使えば、目の前の現実を映画のように世界中に配信できる。驚きの進歩だ。しかしながら、自分といえば、スマホはあるが、メールと電話しか使えない。典型的な 60 代日本人男性に成長した。

武漢発症の新型コロナで、世の中は一変したといわれるが、周りの暮らしは平穏を装っている。人生 100 年、残り約 40 年。どんな技術に出会えるか楽しみだ。きっと自分は、美しい字が書けるといいな、アメリカドラマ (NCIS や Cold Case 等) を英語で理解できるといいな、と書道や英会話を続ける老人のままだろう。

今は何より、第二次世界大戦から 75 年、高校生活、社会人生活を含めて、平和な日々をひたすら感謝、感謝の毎日である。



畑違いのカメラマン これでいいのだ

金田 昭一(30 回生) 羽咋・千代

「こんな弁当は、三口で食べるもんだ！」野球部出身の私が、畑違いのカメラマンとして入社した新聞社研修で、役員からこう言われました。どうやら昼飯は早く済ませて「いつ発生するか分からない、事件事故に備えよ」という事らしい。

巨人軍 宮崎キャンプにて

「ニュースは突然発生する！」それが現実となったのが、翌年の日航機墜落事故でした。一報が届いたのは、久しぶりに帰省し、友人と千里浜海岸で、焼きハマグリを食べていた時でした。すぐさま帰京し、やっとたどり着いた御巣鷹の尾根には、主翼が横たわるなど、悲惨な光景が眼前に。家族を思いながら亡くなった方々の無念な気持ちを想像し、それ以来、悶々とした気持ちを引きずる毎日でした。事故後 30 年を迎え、同僚カメラマンと慰霊登山をする機会があり、ようやく気持ちが落ち着きました。一枚の写真で現場を伝える仕事は、撮影位置が大きくものをいいます。また取材対象が人物の場合、可能な限り存在感を消して黒子に徹します。

首相の外遊同行では、首脳会談撮影のベストポジション確保のため、割り込もうとする外国人カメラマンに「だら」と、羽咋弁を連発したかすかな記憶があること、グラビア撮影のため、赤塚不二夫先生宅に入り浸り、仕事を忘れて飲み過ぎてしまって、自分の「素」を出してしまったことなど、37 年間の勤務の中で、たくさんの出会いや思い出があり、すべてが充実感という財産となりました。

千代町の自宅近くの川が、蛍の名所と知り訪れると、柔らかそうでふわっとした明かりが浮き上がり、草むらに降りてゆきます。その光景で、幼少のころ何の知識もないままに「源氏だ、平家だ」と叫びながら、その光を追いかけていた記憶がよみがえりました。

今と比べて、モノや便利さがいい時代でしたが、その素朴な光景など、心を豊かにしてくれるものが、まだまだふると羽咋に残ってそうで、そろそろ U ターンしようかなと思うこの頃です。



湘南に暮らして（近況報告）

前田 伸二(32 回生)羽咋・柳田

(旧姓:松田)優子(36 回生)宝達志水・河原

大学を卒業し、今の会社に勤め始めて30数年、配属され住み続けているのが、神奈川県伊勢原市です。湘南というと諸説あり、一般に藤沢や茅ヶ崎を思い浮かべると思いますが、わが町も冬の雪がない分、羽咋より暮らしやすいものの、食べ物、特に海産物については、故郷のうまさに勝るものはないと思っています。さて、近況を3点

- 長年、車で地域の事業所に通勤していましたが、2019 年から、電車で都内へ通うことになりました。その後、昨年 4 月からの、リモートワークと通勤のコンビネーション調整に、四苦八苦の日々が始まり、現場が好きな私にとって、国内外の出張もままならない状況です。このような状況の中で、羽咋での農業振興活動に、地元財団の方とともに、会社として関わっていることを知り、非常に期待を寄せています。
- 10 数年前に地元のボーイスカウト活動に加わり、現在も成人指導者として続けています。当初は友人に誘われ、週末家内と息子達を連れ、ハイキングやキャンプなどに参加していましたが、元来アウトドア好きのため、今でも続けています。4 年に一度の全国大会(日本ジャンボリー)が、能登(珠洲)で開催されたおりは、仲間とともに現地を訪問し、石川・能登を紹介できたことが、良い思い出になっています。
- 家内も羽咋高校卒です。以前、地元で偶然高校時代の部活(ソフトテニス)の先輩に出会ったとのこと。お互い驚いたものの、昔話に盛り上がったようです。



学生時代の思い出

木村 光男(34 回生) 志賀・高浜

高校時代は、多くの良い仲間達と過ごすことができました。その中でも奥本克久君は、ビジュアルがアイドル渋谷鉄平に似ていて、ギターの演奏がプロ並みと、学校のスーパースターで、僕は見かけも不細工、音楽も運動も苦手なオタク系と真逆のタイプでした。でも何故か馬が合い、音楽やスポーツなどのとりとめのない話をしたり、ふざけて馬鹿なことしたり、時には真面目に、恋愛の悩み・将来の夢などを語っていました。

一浪して研究者になるという夢を掲げて大学を受験した際に、既に別の大学に進学していた彼が、同じ志と一緒に同じ校舎で受験をした時は、本当に心強かったです。残念な事に同じ学び舎でという夢は叶いませんでしたが、合格できたのは、彼のおかげだと心より思っていました。

しかし、気恥ずかしさから、その後も感謝の気持ちを伝えることはありませんでした。

その彼が、一年後に交通事故で亡くなった際には、自分自身が失われたくらいの喪失感がありました。そして自然と、どこか彼の夢も一緒に背負った気持ちになっていました。しかし、その後理想と現実のギャップは大きく、自分の限界を感じ、研究者の道を断念しました。

就職して、幾つかの団体で新規事業に携わり、その後英検協会で新しい試験を立ち上げ、今では経営の一端を担う立場になり、自分なりに充実したビジネス人生を送ってきたと感じております。一方で、研究者になれなかった事の申し訳なさが心の隅にありました。ところが、何年か前に、大学の研究室の大先輩である赤崎勇先生が、ノーベル賞を受賞されました。その報に接した際には、まるで自分の事のように嬉しく感じ、どこか、心の重荷を少し減らすことができたような気がしました。なお、この原稿を書いてすぐ赤崎先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。



故郷にうまいもんあり

山本 龍正(34 回生) 宝達志水・敷波

東京に居て故郷を思うと、うまいもんがいっぱいあったなあと。東京のスーパーで買って食べても、今一つと感じてしまいます。故郷の味というか、ソウルフードを体が覚えていて、夏は暑く冬は寒い気候が、育んだ味との違いに気づいてしまい、自分は能登で育ったんだと改めて実感します。

雪のちらつく年末に、小さいころ牡蠣を買いにいく父に付いていって、能登湾にせり出して建てられた牡

蠣剥き小屋へ。牡蠣を剥いていたおばちゃん（少し年嵩のお姉さまですね）が、剥いたばかりの殻付き牡蠣を、石炭ストーブの上に乗せて、お醤油をちょいと垂らしてくれる。当時は小振りな牡蠣でしたが、身と殻の上の汁とが相まって旨味が湧き出していて、火傷するほど熱いんだと箸が止まらない。こんなうまいもんないわ。広島に数年居ましたが、これを超える牡蠣に出会えないと思います。

甘いだし汁で、唇でも噛み切れるほど柔らかなうどん。ばあちゃんが作ってくれた、魚の切り身が大きいのかぶら寿しや、甘さ控えめで2つほど食べれば腹いっぱいになる大ぶりのおはぎ。真夏に、昼に故郷の甘めの醤油を垂らして食べるカラシの効いた茶碗豆腐や、葡萄農園で枝から挽ぎたてのデラウェア。千里浜の蛤。秋のアケビ、ムベ。滅多に食べられなかった雉や鴨のすき焼き・・・。

たまに帰省して故郷で食べるから、一層美味しく感じるのでしょうか。能登は美味しい！





東日本大震災の思い

河合 洋嗣人 (36 回生) 七尾・佐味

平成7年、中野区で歯科医院を開業して 25 年が経ちました。その中でも、10 年前の東日本大震災が、特に記憶に残っております。地震が起きた数日後、自宅に東京都歯科医師会事務局から電話あり、被災地のご遺体の身元確認隊の一員として被災地へ行ってほしいとの話でした。多少の不安がありましたが、医院を休診にし、宮城県の石巻市へ行ってきました。地震から1週間たっており、現場の遺体安置所には、ほぼ津波で亡くなられたご遺体が、450 体くらい安置されており、我々歯科の身元確認隊20名で、手分けをして歯のチャートをとっていくという作業で、毎日、次々にご遺体が運ばれてくる過酷な現場でした。ほとんどのご遺体は一瞬に津波にのまれ、溺死されており、さほど損傷もなく、眠っておられる様な印象でした。1週間の現地滞在で、概ね 600 体のご遺体の歯のチャートとり、何とか身元確認隊の職責を果たせたかなと思っております。

首都圏も、数十年以内に直下型の大地震が起きる可能性があると言われております。歯科界も医科と連携して、避難所での医療救護・支援、ご遺体の身元確認等、日々訓練して備えておるところです。私も、東日本大震災の派遣隊の一員としての経験を生かしていければと思っております。最近では、近くにお住まいの関東同窓会元会長・里見忠篤先生(高8)が診療にいらして頂き、北方4島交流事業で、北方領土へ行かれたお話や、貴重な写真を見せて頂き、ご高齢にもかかわらず精力的に活動されており、大先輩から刺激を頂いております。

同窓会の役員の皆様におかれましては、会務大変ご苦勞様です。今後ともよろしくお願い致します。



みんなが元気にいるために

角田(旧姓:沢田)秋(46 回生) 羽咋・御坊山

私は現在、都内の医療系大学で、看護学部教授として看護師を育てる仕事をしています。これまで、精神科神科訪問看護や地域精神医療に携わってきました。この道に進むきっかけとなったひとつに、羽咋高校時代、家庭科のホームプロジェクトで、羽咋市の高齢者福祉について、保健師さんにインタビューをしたことがあります。羽咋市がリードする国のモデル事業に刺激を受け、大学院での看護の研究が夢の一つになりました。

とはいっても、のんびりした羽高生、受験生だというのに、羽高祭のオープニングセレモニーの練習に燃えていました。34 ホーム担任、故・作田勇先生は、受験生の私たちに、さまざまな体験をする時間を与えてくださいました。先生の口癖は「おまえら受験生だぜえ？」で、ちょっと困りつつもニコニコ見守ってくださいました。受験勉強は、塾もないので、今もそうなのでしょうか、お盆もお正月も教室に行き、みんなでやっていました。お好み焼きの「おばちゃん」、学級日誌で交換日記、どれも青春時代の思い出です。高校時代の友人たちとは四半世紀経ったいまも LINE でつながり、帰省するたびに集まっています。昨年、帰省中に作田先生の訃報に触れ、これまでの先生へのお礼をお伝えてしてきました。

私は看護系大学で精神看護学を教えています。実習で学生たちは、精神疾患とともに生きる患者さんの夢や希望を一緒に考え、その実現のために何ができるか、支援計画を考えていきます。また学生自身にも、「自分が元気にいるために」できる工夫や、自分の強み(ストレングス)を考えてもらいます。

羽咋高校の自由な時間の中で培った柔軟性とポジティブさ、精神看護から学んだ希望を持つこと・ストレングス志向は、私たちが、この苦しい時代を乗り越えていくヒントになるように思います。どうか皆で、しなやかにこの時代を乗り越え、新しい時代へとつないで行けますように。きっと私達なら、また起き上がり、進んでいける気がします。同窓生の皆様、在校生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



ステイホームの日々

麻生 理恵(49 回生) 羽咋・御坊山

夫の転勤にともない、何度か引越を繰り返し、東京に住むようになってから十余年が経ちました。昨年外出自粛が続く中、羽咋にも帰省しづらくなっております。夫は昨年3月より在宅勤務となり、自宅でテレワークをし、子供はこの状況下で受験期を迎え、何かと不安な落ち着かない日々を過ごしております。

しかし、ステイホームを過ごすこともまたない経験だろうと、せっかくの『お家時間』を楽しもうと思い、いろいろなことを始めました。

そのひとつが、「カレーをスパイスから作る」です。小麦粉や市販のルーを使わずに、スパイスのみで作る。スパイスのちょっとした加減や引き出し方で、変わる味や香りの違いに対し、家族の要望を聞きながら、スパイスの調整をして、理想の味を求め作り続けています。

他には、「コーヒー豆を手挽きしハンドドリッパーで淹れて飲む」ということを楽しんでいます。豆の種類で違いがあるのはもちろんのこと、淹れ方によっても、こんなに味や香りが変わるものかと、その奥深さに驚かされます。好みの味を求め、より美味しく淹れられるよう、こちらもまだまだ模索中です。毎朝、子供を学校へ送り出したあと、「今日はどの豆にしようか」と夫婦で話しながらかきめ、その豆を挽くことが、夫の日課となっています。テレワークをしているからこそできる時間の過ごし方だと思います。また、夫は週末には、アイリッシュコーヒーを作り楽しんだりもしています。

子供はといえば、もともとジュース類を好まず、緑茶にこだわりがあるので、こちらもまた好きな味と香りを追い求めています。

次は何をしてみようかなと調べながら、この不安定な世の中において、家族が健康に過ごせていることに感謝する日々です。



変化と対応

田端 康平 (50 回生) 志賀・末吉

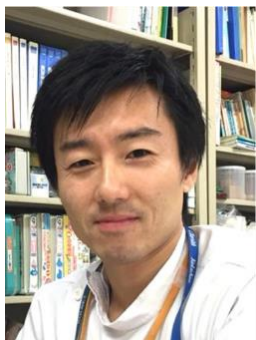
この度は、同窓会会報への寄稿と言う機会を頂きありがとうございます。コロナの本格化からはや1年が過ぎ、社会が急速に変わったと感じています。ゆっくりした流れで変わる社会、例えば、ハイブリッドカーの普及によるガソリン消費の減少や、地球温暖化に伴う暖冬と灯油消費の減少は、10年以上もの長い年月の中で、少しずつ変化がもたらされています。今後どのような変化が訪れるかは、ある程度の予測がつくものです。対して、コロナ

は誰もが予測していなかった出来事であり、多くの人に混乱をもたらしました。石油会社に在籍していた頃は、東京オリンピック開催や、日本の国際化推進に伴う人の往來の増加という、今後訪れるであろう未来の社会に対して、どのように対応していくべきかを考えていました。まさか海外渡航が制限され、飛行機がほとんど飛ばず、航空用の燃料販売が著しく減少する事態になるとは、当時は夢にも考えてなかったところでした。

飲食店や観光業など様々な産業に携わる方々が、大変な苦勞をなさっている状況下ですが、それでも人々の力強さが見えます。インターネットの普及や通信の改善により、テレワークによる業務の継続は可能となりました。またインターネットショッピングを活用して、地方の方が、特産物の販路を外に広めています。直近は、地方自治体や商工会議所の方々とお仕事をさせて頂く機会にも恵まれ、この社会の変化のタイミングを活用した、新たな地域創生の形作りサポートさせて頂いていたりします。「ピンチはチャンス」です。この急速な社会の変化の中でも、視点を変えることで、問題も機会に変わります。

最後になりましたが、関東同窓会の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。





故郷を離れ 19 年、第二の人生へ

河端 将司(54 回生) 宝達志水・免田

故郷を離れて 19 年、もうすぐ 38 歳。19 歳手前で上京したので、ちょうど半分半分。これからは関東生活の方が長くなり、家庭を持ち本拠地となったとはいえ、やはり故郷「羽咋・押水」への愛着が褪せることはない。

私は、北里大学（相模原）に進学し、理学療法士を養成する学部で 4 年間学んだ。卒業後は、相模原協同病院で理学療法士として十数年従事し、スポーツ・運動器疾患を中心に、老若男女・プロ選手に対する社会復帰や、競技復帰の支援に尽力してきた。羽咋高校時代、野球部主将でありながら、ケガで苦渋を舐めた私は、その経験を糧に、ケガをした人を支援する職業を選択した。自分が選んだ職業を全うできている今、何よりも誇りと幸せを感じている。（余談だが、実はこの相模原協同病院、本邦コロナ第一号を受け入れた病院で、当時は色々と苦勞もした。）

そんな私の第二の人生は、2021 年 4 月から母校北里大学の教員（講師）として教壇に立つことである。まさか自分が、理学療法士を目指す後進の育成に携わる立場になるとは……。振り返れば、ちょうど 19 年前に夢と希望と抱き田舎から上京した 19 歳の若造が蘇り、自然と新鮮な初心が思い出される。無人の七尾線免田駅から夜行で旅立つ若造。見えなくなるまで手を振る母親の姿が、今も脳裏に焼き付いている。故郷は、いつでも心の拠り所として随所で支えとなってくれた。羽咋高校での文武両道、心身ともに鍛えた経験も、確実に今につながっている。

さて、第二の人生、これまでの感謝と初心を忘れず、恩返しできたと胸を張れる人生にしたいものだ。

7月に歌手生活60周年記念曲 「天地人」を発売



新 川 二 朗
ふるさと演歌の
代表

義理と人情を
人一倍大切に
する演歌人

（宝達志水・荻市 10 回生）

前回の東京オリンピック 1964 年『東京の灯よいつまでも』が大ヒットで NHK 紅白歌合戦に初出場。

「天地人」は、亡き母がとても気に入っていました。今回の記念曲として歌いたいと、金沢ヘルスセンター時代に、下宿が隣同士で一緒に活動をしていた作曲家、聖川湧氏に相談。そして、浅草での修行時代の仲間であるバーニングプロダクション周防郁雄社長の肝入りで、レコーディングが決まりました。

いい曲です。

皆さん、是非聴いてください！

関 東 同 窓 会 役 員 紹 介

平成 30 年度の総会で承認され、役員の任期は 2 年間でしたが、昨年総会が開催できず、任期を 1 年間延期させていただきました。今年度は、11 月に総会を開催する予定ですがコロナ禍で開催ができなかった場合、次回の総会まで、再度役員の任期を継続させていただきます。ご了承願います。

名誉会長	倉部 行雄 (中 18)	理 事	南 雄二 (高 20)
会 長	本多 群司 (高 16)		有川 雪子 (高 20)
副会長	犬塚 清美 (高 19)		木村 琴美 (高 26)
	浮田 學 (高 19)		和田 智恵 (高 26)
	轟 暁子 (高 20)		森村 睦子 (高 26)
	赤池 清 (高 20)		北嶋 克悦 (高 31)
	山川 富雄 (高 25)		村 隆司 (高 31)
	赤池 典充 (高 27)		宮谷伸一郎 (高 32)
	發田 朗 (高 30)		中森 亮政 (高 34)
	永島 和人 (高 32)		塩谷 毅志 (高 36)
相談役	西井 信夫 (高 2)	理 事	吉田 充基 (高 36)
	★加藤 弘三 (高 3)		川村 洋子 (高 39)
	治郎堂 實 (高 7)		須田 雅之 (高 41)
	藤岡 玲子 (高 7)		森 圭吾 (高 49)
	森田日出喜 (高 8)	監 査	宝田 良正 (高 16)
	岡野 勉 (高 9)		渡 憲次 (高 20)
	土田 米蔵 (高 10)	事務局	赤池 典充 (高 27)
	山上 徹 (高 14)		北嶋 克悦 (高 31)
顧 問	中島 正治 (高 4)		宮谷伸一郎 (高 32)
	吉岡 亨 (高 6)		塩谷 毅志 (高 36)
	大矢 昭雄 (高 10)	会 計	南 雄二 (高 20)
	本吉 昭子 (高 14)		木村 琴美 (高 26)
	杉浦 節美 (高 22)	地元世話役	瀬戸 公英 (高 20)
	小林 美紀 (高 25)		
	河合洋嗣人 (高 36)		

★逝去されました。

高10 志賀・安津見

株式会社村田製作所代理店
岡谷電機産業株式会社代理店
日立エーアイシー株式会社代理店
ビシェイジャパン(株)代理店

電子部品総合商社



取締役会長 **大矢 昭雄**

本 社：〒214-0031

川崎市多摩区東生田 1-13-5 多摩 パーツビル
Tel 044-900-3801 Fax 044-900-3310

物流部：〒214-0031

神奈川県川崎市多摩区東生田 1-13-6
Tel 044-900-3801 Fax 044-900-3310

来年は母校 100周年です。羽松ヶ丘の友よ。頑張ろう！

高15 志賀・清水

ライフホーム有限会社 **Life Home**

宅地建物取引業神奈川県知事免許 (6)21721号
電気工事業者神奈川県知事登録 第2020042号

代表取締役

宅地建物取引士 **松田 建次**

〒223-0062横浜市港北区日吉本町2丁目22-23
TEL 045-564-3588 FAX 045-561-5902
第1級アマチュア無線局 JRI-DPC横浜 日吉
mazda_702@nifty.com

高16 志賀・上熊野



東浴信用組合

理 事

北 口 松 雄

〒101-8630 東京都千代田区東神田 1 丁目 10 番 2 号
Tel (03)5687-2640(代表) Fax (03)3865-5097
URL <http://www.touyoku.shinkumi.jp>

ONE♡NEED 高19 羽咋・釜屋
株式会社ワン・ネス

犬塚 清美

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 2 丁目 4-3-1005
TEL & FAX: 03-3967-1156
E-mail: kiyomi0770@gmail.com

人生100年の時代！未だ未だ楽しく生きたいですね♡

高20 宝達志水・敷波

松沼 医院

内科 小児科 循環器科 呼吸器科

院 長 **松 沼 恭 一**

〒929-1414 石川県羽咋郡宝達市水町敷波 247
Tel 0767-29-3188 Fax 0767-29-2991

地域医療に頑張っています。

宝達志水・杉野屋

高下謹壺法律事務所(第一東京弁護士会)
石 川 県 人 会 副 会 長
金沢大学教育学部附属高等学校同窓会
関東支部支部長
第一東京弁護士会 平成26年度 副会長



弁護士

高下 謹壺

〒104-0061 東京都中央区銀座 5 丁目 8 番 5 号
ニューギンザビル 10 号館 4 階
TEL.0 3 - 5 5 6 8 - 6 6 5 5 (代)

姉と妹・いとこ2人は羽咋高校卒業生です。

高22 羽咋・千里浜

オーナー **杉 浦 節 美**

風の沢ミュージアム



風の沢ミュージアムは、現代美術館、ギャラリー、
カフェ、ショップ、里山公園からなる複合施設で
す

〒987-2302 宮城県栗原市一迫片子沢外の11

電話：0228-52-2811

<http://www.kazenosawa.jp/>

集まりの悪い22回生！年老いた顔を見せ合おう

高25 宝達志水・敷浪

〒155-0032 東京都世田谷区代沢4-34-15

(株)ラングスジャパン

代表取締役 小林美紀



高20 宝達志水・小川

株式会社 **コンステック**

相談役 **中村 洋行**

工学博士・一級建築士

[事業内容]

- ◎耐震補強…耐震調査診断・耐震補強設計・耐震補強工事
- ◎調査診断…赤外線などの各種非破壊試験を用いたコンクリート構造物の調査・診断
- ◎補修・改修…外装改修・屋上防水改修など
- ◎環境対策…アスベスト・ダイオキシンなどの有害対策

[支店]

札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・神戸・松山・広島・福岡

[営業所]

帯広・福島・高崎・新潟・富山・金沢・福井・静岡・京都・高松・高知・山口・北九州・長崎・熊本・鹿児島・沖縄

[本社]

〒540-0031 大阪市中央区北浜東4-33 北浜ネクスビル

Tel.06-4791-3100 <http://www.constec.co.jp>



取締役常務執行役員 創薬研究所所長
開発企画部担当
学術博士

高25 羽咋・釜屋

山川 富雄



日本ケミファ株式会社

創業研究所 埼玉県三郷市彦川戸1丁目22番地

〒341-0005 Tel 048-952-4311 Fax 048-952-0743

本社 東京都千代田区岩本町2-2-3

〒101-0032 Tel 03-3863-1211

t-yamakawa@chemiphar.co.jp

<http://www.chemiphar.co.jp>

羽咋市長は、同期の岸君です。皆で応援しましょう。

有限会社 **牛勝**

高27 羽咋・川原

携帯電話 090-8966-0848

代表取締役

番匠 久雄

ばん しょう ひさ お



□本社 / 本店 〒925-0033 石川県羽咋市川際町テ 27-3

Tel 0767-22-0029 Fax 0767-22-8429

□カウイン牛勝(アルプラザ鹿島) Tel 0767-76-2304

高27 羽咋・堀替新

平鍛造株式会社

代表取締役社長

平 美都江



〒925-0697 石川県羽咋市千代町い80

TEL 0767-26-2158

FAX 0767-26-1758

e-mail: mitoe@tairatanzo.co.jp

いしかわ観光特使

高27 宝達志水・上田

羽咋高校関東同窓会 副会長 兼 事務局長

宝達志水関東ふるさと会 事務局

稲荷第一町会 理事(文化育成部 部長)

赤池 典充

〒340-0003 埼玉県草加市稲荷5-35-36

TEL 090-2334-9276 MAIL:ntsk-aka@outlook.com

笑顔で声かけを！我が家・わが地域・わが職場で！

平チャンネル

高27 羽咋・堀替新

平 美都江



〒925-0615

石川県羽咋市千代町い80

TEL 0767-26-2158 (代表) FAX 0767-26-1758 (代表)

Mail: mitoe@tairatanzo.co.jp



公益財団法人



**平昭七
記念財団**

羽咋高校関東同窓会 名誉会長
ふるさと関東羽咋会 名誉会長
元共栄大学客員教授

中18 羽咋・島出

倉部 行雄

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 6-8-22
Tel / Fax 03-3922-1157

卒寿プラス・3 (93才) で、皆様のご多幸を記念します。
同窓会出席率より生存率。同窓会、欠席すれば死亡説。

高2 宝達志水・宝達

プラスチック・ガラス試作と精密加工
分注器機 開発 制作



不二技研工業株式会社

代表取締役
会長

西井 信夫

〒170-0012 東京都豊島区上池袋 3-4-11
Tel 03-3917-6137(代) Fax 03-3915-1313

生涯現役！ 若人頑張れ！！

高10 羽咋・吉崎



塗装工事
防水工事
リフォーム工事

知事許可第18772号

株式会社 ハクイ 建装

取締役会長 土 田 米 蔵

〒223-0065 横浜市港北区高田東2丁目16番15号
TEL 045 (542) 0711
FAX 045 (542) 0637
携 帯 090-3230-4180
E-mail: hakui@watch.ocn.ne.jp

若い世代を大切に！俺が俺がにならないこと。

ふるさと関東羽咋会 会長
梅花女子大学 教授
同志社女子大学 名誉教授

高14 羽咋・粟生

やま じょう

商学博士

山上 徹

研究室：〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄 2-19-5 梅花女子大学
E-mail: t-yamajo@baika.ac.jp

自 宅：〒182-0004 東京都調布市入間町 3-6-44
Tel/Fax 03-3789-3722

ふるさと羽咋の情報をお互いに共有し、発信しましょう！



じっ ぼう
実朋美術社

社主 本多 群司

游宇 (P.N)

〒216-0006 川崎市宮前区宮前平 3-9-6-102
Tel / Fax 044-853-7139 (事務所)
田園都市線 宮前平駅 徒歩 2 分

「人生謳歌」の同窓会に！

高16 羽咋・中央



とどろき医院

本部同窓会 会長

轟 千栄子

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町切道 8-4
Tel 0767-22-7855 Fax 0767-22-0676

来年は創立100周年、みなさまのご支援をお願いします。

高27 羽咋・川原

令和3年度 羽咋高校関東同窓会 第62回総会開催のお知らせ

日時：11月6日（土）13時～14時

（懇親会は未定）

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

千代田区九段北4-2-25

市ヶ谷駅「A1」から徒歩1分

9月上旬に「開催通知」または、その時点ででの感染
拡大状況により「中止」の案内を送らせて頂きます。

石川県立羽咋高等学校関東同窓会

会長 本多 群司

【 編集後記 】

新型コロナ禍で、誰もが生活の上でも気持ちの上
でも、大きく影響を受けている状況です。人との交
流が大幅に少なくなり、とても寂しい日々が続いて
います。昨年は、コロナ禍で総会を開催することが
できませんでしたので、今回の会報は、内容を大幅
に変更しました。「会員ネットワーク」のコーナー
を通して、会員の皆様との絆を深めていただけたら
と思います。ご多用にもかかわらず、多くの会員の
方から原稿をいただくことができました。心より感
謝申し上げます。

事務局 赤池典充（高27）